

七月八日（晴・曇・雨）				
前	前	前	前	前
〇、二〇	〇、三〇	〇、三〇	〇、二〇	一、四五
小野口旅團副官ヨリ電話				
豊台部隊第八中隊ハ蘆溝橋龍王廟附近ニ於テ夜間演習中午後十				
一時頃突然支那側ヨリ十八發ノ射撃ヲ受ケタリ				
中隊長清水節郎大尉ハ直ニ中隊ヲ召集應戰ノ態勢ヲ執リシ處兵				
一名行方不明ナルコトヲ發見セリ				
目下相對峙中				
牟田口警隊長ヨリ機關長ニ蘆溝橋事件ニ關シ電話アリタリ				
機關長ハ外交委員會林耕宇ニ電話ヲ以テ直ニ時態拾收方ヲ通告				
セラレタリ因ニ支那側部隊ハ第三十七師第一一〇旅二一九團第				
三營ナリ				
林耕宇ヨリ機關長ニ電話				
秦市長ヨリ現地部隊ニ擴大セサル様下命セリ				
林耕宇ヨリ連絡アリタルヲ以テ機關長ハ支那側及日本側ノ代表				

0005

者ヲ現地ニ派遣シ事件擴大防止ニ努力スル様態懇懇セリ

林耕宇ハ魏主席ノ意見トシテ「日本軍ノ行動停止ヲ取計ラレ度

ト申出タルニ對シ機關長ハ「現地ノ軍隊ハ目下盛ンニ活動中

ナルヲ以テ即時行動停止ハ困難ナルヘキヲ以テ速ニ責任アル代

表者ヲ現地ニ派遣スル様日本側ヨリモ直ニ代表者ヲ派遣スヘシ

ト通告セリ

旅團副官ヨリ

ノ目下通州ニ於テ演習中ノ聯隊主力ヲ自動車ニテ射撃場ニ集結
シ爾後ノ行動ニ備フ

2. 豐台部隊ヲ蘆溝橋東方五百米大道鐵道交叉點附近ニ位置シ前
方敵情搜索中

3. 射撃場ニ集結中ノ部隊通過ノ爲朝陽門ノ開門ヲ支那側ニ通告
セラレ度

4. 日支代表者現地ニ赴ク場合旅團ヨリ森田中佐ヲ差出スヘシ

0006

前 二二五	輔佐官ハ緩慢公署周永業ニ電話ニテ連絡朝陽門ノ自由交通ニ關 スル交渉ヲナス
前 二二〇	穆井順問ハ齋藤通諱ヲ伴ヒ秦德純及馮治安ヲ訪問ノ爲ノ外出 旅團小野口副官ヨリ電話 ノ行方不明ノ兵ハ無事ナルコト判明セリ從ツテ我軍ハ何等ノ損 害モナシ
前 二二五	2 解決條件トシテ旅團ハ日本軍ノ演習ヲ害シ不法發砲セルハ 皇軍ニ對スル最大ノ侮辱ナルヲ以テ最小限度 (1) 師團長ノ謝罪 (2) 第三營ノ即時撤退 ヲ要求シ度カ繼關長ノ意見御伺度ト 繼關長ハ之ニ對シ(1)項ハ何等異論ナキモ(2)項ハ軍ト相讓ノ上決 定スヘシト 外交委員會委員長及縣委員來訪

0007

東通公司職員ヲ招致概況ヲ説明スルト共ニ飛行機保護打合せヲ ナス	前 二、四〇	小野口副官ヨリ電話 旅團ヨリ軍ニ指示ヲ仰キタル所大木參謀ハ「不法射撃ニ對シテ ハ斷呼支那側ノ陳謝ヲ要求スヘシ交渉ニ赴ク時ニハ一ケ中隊ヲ 帶同シ必要ニ應シ武力發動ヲモ敢行スヘシ」トノ指示アリ 橋本參謀長ヨリ機長ヘ電話アリ機長ヨリ概況説明ノ上指示 ヲ仰ク	前 三、〇〇	周永業來訪	前 三、〇五	憲兵隊長來訪 櫻井顧問秦德純ト會見シ驛館ス秦德純ト約束セル狀況	前 三、一〇	ノ他部隊ヲ動カサス 2 蘆溝橋部隊ハ外部ニ出サス 3 事件擴大ヲ極力防止ス
--	-------------------	--	-------------------	--------------	-------------------	--	-------------------	--

0008

前	三三五	日代表現地ニ赴ク
日本側	櫻井顧問、寺平輔佐官、齋藤通譯	赤藤隊長、憲兵五名
森田中佐、大塚通譯生、一ヶ分隊	支那側	王常平隊長、周副隊長、林專門委員
前	四〇〇	鄭文軒ヨリ電話
前	四三〇	現地ノ狀況不明ナルモ原因ハ些細ナル誤解ニ基クコト明ナルヲ以テ張壁氏等事件ノ擴大ニ懸念アリ宋哲元氏ニ電話ニテ狀況ヲ連絡シ支那側部隊ニ對シ輕舉セサル様嚴命ノ電話ヲナセルニ付機關長ニ於テモ可然ク日本側ヲ指導セラレ度希望ナリ 軍鈴木少佐ヨリノ電話 觀台駐屯ノ我部隊ハ七日夜夜間演習中午後十一時四十分迄薩摩

0009

前 五〇〇	前 四二八	前 四二〇
現地に赴キタル松井通閣ヨリノ第一報	ハ準備シアルナラン 兵舎ハ全部射撃シアリテ兵ノ相當動クヲ見受ケラレタレハ或 ハ準備シアルナラン 3. 海軍寺兵營變化ナシ 4. 綾瀨公署變化ナシ 5. 憲兵司令部射撃セラレアルモ門ハ閉鎖セラレアリ 6. 市内變化ナシ	橋附近ニ於テ支那軍ヨリ不法ニモ不意ニ數十發ノ射撃ヲ受ケタ ルヲ以テ直ニ演習ヲ中止シ取敢ヘス該支那部隊長ニ對シ射撃ヲ 要求中ナリ 以テ 憲兵隊ヨリ市内状況偵察ノ結果 1. 西直門附近 一ヶ營ノ兵隊演習ヨリノ歸來カ? 西苑ニ同ケ行進中ナリ 2. 西苑

0010

1. 日本側ハ前記箇所ニテ依然待機中	2. 支那側ハ全部城內ニ入りアリテ部署ニ付キ居ラス	3. 城外ニ若シ支那兵居ルニ於テハ日本軍ハ之ヲ攻撃スルナラン	4. 日支代表團ハ支那側ニ阻止セラルルコトナク城內ニ入ル	5. 此ヨリ營長ト令見ノ上共同調査チナス	6. 城ノ北方ニ於テ五、六發發砲セルモ該方ニハ日本軍モナク狀	況不明ナリ	幸平輔佐官ヨリノ報告	一行ハ城內ニテ交渉中ノ所城外ノ日本軍ト支那軍隊ノ間ニテ射	撃ヲ開始セリ	一行ハ城內ニ在リテ極力事態擴大防止ニ任ス	ノ六時五分頃彼我ノ射撃停止ノ勢ニアリ	2. 大陸本部ハ前記橋樑ノ附近進ム	3. 城内營本部其他部隊ハ白旗ヲ掲ケアルモ城壁ニ依ル一部隊ヨ
--------------------	---------------------------	--------------------------------	------------------------------	----------------------	--------------------------------	-------	------------	------------------------------	--------	----------------------	--------------------	-------------------	--------------------------------

0011

前 六一五	リハ時々射撃ヲ受ク 和知參謀、鈴木大尉來平（自動車ニテ）直ニ機關長、和知參謀
前 六二〇	鈴木大尉機除ニ牟田口隊長ヲ訪問セラル 今井武官來訪セラレシモ機關長不在ノ爲メ其機除ニ向ハル
前 六四五	塚田中佐ヨリ電話 現地偵察ノ爲メ飛行機使用ノ希望アレハ旅客機二台（操縦士共
前 七〇〇	）南苑飛行場ニ準備シアリ何時ニテモ使用セラレ度シ但シ公司 ノ性質上使用ノ際ハ支那側ヨリモ同乗セシメルヲ可トスル意見 ナリ 機井顧問並ニ寺平輔佐官ヨリ電話 戦闘ヲ停止セシムル要アリテ支那ハ極力鎮壓セル結果漸ク停止 セルモ日本側容易ニ徹底セサルタメ各處ニ白旗ヲ掲ケ更ニ第一 線ヲ機井顧問巡迴停止勸告セシメタルモ未タ其意思徹底セス 就テハ機除長ヨリ停止方命令セラレル様交渉依頼ス

0012

前
セ一〇

旅團ヨリ戦況報告

今戦場ニ於テ日軍側ハ

野島少佐負傷

鹿内准尉戦死

下士官其ノ他損害ハ有ル見込ミ

戦闘停止ハ午前六時半ニ命令セリ（第一線ニ命令徹底セルハ發

ラク七時頃ナラン）

天津通信隊長ヨリ電話

通信線ノ状況

ノ北平―天津間

昨夜十一時半頃揚村附近ニ於テ切斷セラレ不通

2. 北平―野台間

事件後敵回ノ障礙ヲ受ケタリ

右ハ時間のニ見テ事件ト何等カノ連絡アル如ク思料セラルルニ

前
ハ二〇

0013

前

九一五

付交渉上ノ參考迄

蘆溝橋寺平輔佐官ヨリ電話

1 現地蘆溝橋ニハ一ケ中隊ノ支那兵守備シアリ

2 日本軍ハ蘆溝橋北側ヨリ永定河ヲ渡リ攻奪セルモ北側ニ集結セリ

3 城内ニハ二千名ノ人民アリテ日本軍若シ平漢線ノ南側ニ進出スルカ如キコトアラシカ全面的衝突トナリ二千名ノ人命ヲ犠牲ニスル結果トナリ事態ヲ悪化セシムル危険最モ大ナリ

4 城内ニ止ル日本軍ハ櫻井少佐、寺平大尉、瀧藤通譯ノ三名ナリ

之ニ對シ樺山長ハ輔佐官ノ郎時北平へ歸還ヲ命シタルカ輔佐官ハ電話ニテ吉富婦ニ對シ「歸還ノ際城内ニテ阻止セラルルコトモ豫想セラルルヲ以テ若シ歸還セサル時ハ歸還不可能ナルモノト判斷セラレ度」ト

0014

九四五

小野口副官ヨリ

九四五

演習部隊除隊平ノタメ射撃場附近ニアル田軍ハ朝陽門閉鎖ノタメ
通行不能至急開門ヲ支那側ニ要求方依頼アリタルヲ以テ愛澤機
關員ハ不敢取市政府ニ赴キタル處市長ノ意見「市政府ノ所管事
項ニ非ス又北平ノ人心不安ナル際通州ヨリ日本部隊入城スルハ
更ニ人心ヲ惡化セシムル虞アルヲ以テ前線ノ事態落着ク迄暫ク
入城ヲ見合サレタシ此ハ北平市長トシテノ御願ナリ」ト
機關長ハ旅團ト打合せノ上更ニ強硬ナル態度ヲ以テ支那側ト折
衝中 以ヒハ午前十一時頃

一〇一〇

小野口副官ヨリ電話

「蘆溝橋ニ於ケル軍隊ヲ十一時迄ニ撤退ス可シ然ラスンハ日本
軍ハ攻めスヘシ」トノ電話アリタルヲ以テ直ニ外交委員會主席
ニ傳達之ニ對シ支那側ハ午後一時迄回答延期ヲ願ヒ出テ來レリ
當方之ヲ許サス強硬ニ交渉中

0015

前 一一、二〇	機關長ヨリ市政府（祝經元）ニ通告 祝ヲ通シ奏、馮、齊ニ對シ「朝陽門ノ閉鎖ヲ依然トシテ繼續ス ルニ於テハ軍ノ行動ヲ妨害スルモノト看做シ自衛上實力ヲ以テ 通行スル」旨通告シ開門ヲ要求セリ
前 一一、二五	支那側孫潤宇ヨリ電話 蘆溝橋事件解決ハ兩軍撤退後交渉シ度ト申出來リシニ對シ「先 ニ通告セル如ク撤退ヲ第一義トシアルヲ以テ若シ撤退セサルニ 於テハ既定方針ニ基キ斷然蘆溝橋ノ攻堅ヲ開始スルモノナリ」 ト警告セリ
前 一一、三〇	機關長ハ橋本參謀長ニ對シ狀況ヲ報告スルト共ニ打合せ並ニ指 示ヲ仰ク
前 一一、四五	東通公司ヨリ本朝南苑飛行場ニ赴キシ事務員四名ハ朝食ノタメ 歸還ノ途南苑入口ニ於テ二十九軍兵隊ノ爲メ通行阻止セラレシ 事結局辛クシテ歸還スルヲ要ス

0016

後 〇一五	寺平輔佐官連絡ノタメ離還
後 〇二〇	現在永定河右岸ニ進出セル日本軍ヲ左岸ニ集結シ之ヲ交換シ 蘆溝橋部隊ヲ右岸ニ撤退セシムル案ヲ現地ニテ作成シ夫々當 ニ向ヒ講訓中ナリ 市政府秦德純代理朱秘書ヨリ電話 朝陽門ノ開門ニ應シ難シ
後 一三〇	理由 1. 目下戦争状態ニアルタメ安寧秩序保持上ヨリ 2. 現在ノ市長トシテハ綏靖公署及軍命令ニ依ルモノナレハ 方ナシ 3. 貴軍ノ通過ハ内偵ノ結果演習嚙リノモノニ非ス通州ヨリ 出動部隊ト認メラル 以上ニ依リ北平全市民ノ爲メ開門スルヲ俟ス 北平市政府ヨリ市長ヲ代表シテ祝專員來訪

0017

總團長ハ之ニ對シ「事態擴大防止ノタメ支那側部隊ハ永定河兩岸ニ日本軍部隊ハ東岸ニ夫々撤退シ爾後ノ交渉ヲ開始スル如クシタシ然ラサレハ對峙ノ佛夜ニ入り事態ハ益々惡化シ遂ニハ日本對黨察ノ全面的衝突ヲ惹起シ黨察ハ動亂ノ巷ト化サン目下吾ノ爲スヘキ事ハ全力ヲ盡ケ事態惡化ヲ未然ニ防止スルコトナリ」	之ニ對シ祝專員ハ「直ニ市長ニ報告シ回答ヲ請スヘシ」ト	現地秘井少佐ヨリ電話	域内ノ支那部隊ニ對シテハ極力發砲ヲ抑制シアレトモ日本軍ヨリ斥候等ノ現ルルノニ對シ時々發砲シアリ	先程寺平大尉ノ連絡セル撤退案成立スル迄日本軍ノ行動ヲ停止スル機歩兵隊ニ連絡セラレ度	陸軍本部岡村中佐ヨリ電話	現地ハ又相當發砲シアリ且ツ現在ノ日本軍ノ態勢不利ナルヲ以
--	-----------------------------------	-------------------	--	--	---------------------	-------------------------------------

後

二一五

ヲ積極的攻撃ヲ開始スルヤ否ヤ決定シタキモ撤退案交渉其後経過ニツキ聯合隊長ヨリ照會アリタリトテ右照會シ來リタルヲ以テ目下秦市長、魏主席、西田顧問、寺平輔佐官ノ間ニテ折衝中ナル旨回答セリ

通州守備隊長藤尾中尉ヨリ電通

ノ天津ヲ出發セル機械化部隊ハ今ヨリ約三十分以後ニハ通州ニ到着シ得ル狀態ニアリ依ツテ朝陽門ヲ通過シ得レハ好都合ニ付支那側ニ對シ再交渉方依頼ス

2機関ヨリ右ニ對スル回答

朝陽門ノ開門ハ到底望ミ得サルニ付キ通州演習部隊ノ如ク北

平南方地區ヨリ聯合ニ向ハレ度

憲兵隊重松少尉ヨリ電話

機井顧問ヨリノ通報ニヨレハ現地ニハ二十九軍首腦幹部ナキヲ以テ時局ヲ收拾スル能ハス現地ニ派遣來ル様支那側ニ交渉セラ

後

二二〇

0019

後	後	後
三三〇	二五五	二四五
櫻井顧問ヨリ電話	ヲ説明ス	レ度トノコトニ付當方、方々ニ連絡セルモ連絡ツカサルヲ以テ 貴機關ヨリ遠慮セラレ度ト 依ツテ目下外交委員會ニテ折衝中ノ武田囑託ニ右事情ヲ傳へ奉 德純ニ提議スル如ク處置ス 天津橋本參謀長ヨリ情勢ニ關スル照會アリ機關長之ニ對シ近況 輔佐官歸還、交渉全ク決裂 停戰議定案ノ提出ニ對スル支那側ノ態度 「八日午後二時西苑兵營ニ於テハ蔡儒純、馮治安等集合シ密議 ヲ繰ラシアルモノノ如シ 永定河ヲ境トシテ日本軍ヲ東岸支那軍ヲ西岸ニ移動セシメシ スル案以上二件ヲ當方ヨリ要求セルモ蔡儒純ハ耳ヲ貸サス寧 日本軍ノ撤退ヲ希望シアルカ如キ狀態ナリ」

0020

後 四〇〇	現地ノ事態再ヒ悪化シ日本側ヨリモ射撃ヲ開始セリ 山領顧問ヨリ 北寧線ノ運行停止シ北平發列車ハ發車不能トナレリ 陳覺生ハ目下之カ對策ニ付キ日本側ニ指示ヲ受ケ度ク申出アリ タリ
後 四一〇	祝尊員來訪 橋本參謀長ハ昨自忠ヲ遣シ日本軍ハ龍王廟、支那側ハ蘆溝橋 城內ニ收容シ圓滿ニ解決スル希望ヲ有シ之ニ對シテハ滿治安モ 贊意シアルモ貴機關ヨリ提示セル永定河ヲ挾ミ集結スル案ニハ 極力反對ヲ表明シアリト述ヘタリ
後 五五〇	旅團司令部ヨリ電話 旅團司令部ハ午後四時三十分豐台ニ移動セリ
後 六三〇	豐台ノ鈴木大尉ヨリ電話 聯隊長ハ午後四時半蘆溝橋ニ到着午後六時前線各部隊ニ次ノ如

0021

キ命令ヲ下セリ	「日本軍ハ自主的ニ永定河東岸ニ撤退ス」	之ニ對スル旅團長ノ決心	「旅團ハ第一聯隊ノ主力ヲ永定河東岸ニ集結機械化部隊ノ來着ヲ待チテ蘆溝橋ヲ攻壓セン」ト	後 七三〇	市内視察ノ憲兵ヨリ狀況報告アリ「市内ノ警戒ハ嚴重ニシテ交通ノ要所ハ武装兵五六十名宛警戒シアリ	後 八三〇	臨時戒嚴令施カレ市内ノ通行杜絶ス	後 一〇二〇	輔佐官ハ武田囑託、西田顧問ハ秦市長ヨリノ迎ノ自動車ニテ市長宅ニ赴キ撤退ニ際シ協議ス	後 一二一五	岡村中佐ヨリ電話（第一線ノ狀況） 八重ハ目下集結中ナルモ行動困難ナリ敵ハ目下時々射撃ヲナシ歩兵砲ヲモ使用シアリテ川村少尉及某准尉負傷セリ負傷者收容等ノタメ撤退困難ナリ
---------	---------------------	-------------	--	----------	--	----------	------------------	-----------	---	-----------	--

0022

北平陸軍機關
職員表

2 八寶山附近、衙門口附近ニ在ル敵ハ攻勢ニ臨スル氣配アリ			
3.1ハ集結ヲ完了セリ			
4 聯隊長ハ目下拂曉攻撃ノ準備命令ヲ下達セリ			
陸軍歩兵大佐	松井太一郎	奏任待遇囑託	松尾松太郎
中佐	中島第四郎	(通信技術)	村田直明
少佐	櫻井徳太郎	奏任待遇囑託	余村實
砲兵少佐	笠井半藏		守谷猛雄
歩兵大尉	寺平忠輔		武田照
通信局長囑託	佐谷台二		岡城堅造
勅任待遇囑託	西田耕一		和田大衛
奏任待遇囑託	山領貞二	陸軍副	吉富重雄
	栗屋秀夫	通譯生	愛澤誠

・	道	備	・	タイピスト	・	給	・	・	雇	軍	・	・	陸
	譯	人				仕			員	囑判扱			軍判待
片岡種次	河端誠二	高島芳子	中川綾子	愛澤信子	高橋繁	杉澤満	武藤正美	檜垣壽吉	折田武二	廣瀬恭	濱田幸夫	松尾隆男	小野武八
													通
													譯
													齋藤
													鍋州

0024

七月九日（曇・雨）

前〇二〇

寺平輔佐官一行歸還、交渉ハ依然進行セス、回答ハ張允榮齋ス豫定

前六一〇

張允榮ハ寺平輔佐官奏徳純交渉ノ回答ノタメ來關シ機關長、和知參謀、輔佐官之カ衛ニ方リ從來ノ第一案中、在蘆溝橋支那軍ノ撤廢ヲ午前六時ニ半數其ノ他ノ半數ヲ九日夕迄ニ撤退セシムヘキニ付同意ヲ求メ度シト申出ツル迄進捗セシ折柄

前一三〇

軍鈴木少佐ヨリ左記電報ニ接ス

張自忠ハ在蘆溝橋樞部隊ヲ午前四時迄ニ撤退スヘキ旨約セリト依テ張允榮一行ニ對シ更ニ折衝ヲ重ネツツアリシカ

前二一〇

塚田中佐ヨリ左記電話ニ接ス

張自忠ハ湯治安ヲ説キタル結果左記事項ヲ約セリ

一、前言中午前四時ノ撤退ハ困難ナルヲ以テ午前五時以降ニセツレ度

0025

三 現在龍王廟附近ニ進出シアル第三七師ノ一部隊ハ衙門口ニ撤退セシム

右二項ハ張自忠、李文田、馬等責任ヲ以テ實行ス（李、馬等ハ日本側ノ態度硬化ニ大イニ恐怖シアリ）

軍ハ支那側ニ於テ實行セハ軍隊ノ移動竝彈藥ノ輸送等ハ停止ス以上ニ基キ張允榮ヨリ色々申出アルヘキモ婉曲ニ斷ハレ度（張允榮ハ今後ニ於テ利用スヘキ人物ナルニ付ナルヘク感情ヲ損ネサル様）

右ニ付張允榮ハ概ネ承諾シ午前二時半歸レリ

機關長竝和知參謀ヨリ停戰ノ約概ネ成立セル旨軍ニ報告ノ上兩軍撤退後ニ於ケル前後處置ニ付大木參謀ヨリ左記ノ如ク和知參謀ヘ通報ヲ受ク

六 支那側關係師團長ノ謝罪

三 責任者ノ處分

三排日分子ノ取締	四騎兵第九師ノ駐防地變更	五日本軍隊ノ蘆溝橋通過許可ノ件	林耕字ヨリ電話	一、張允榮歸來後秦德純ト協議ノ結果蘆溝橋部隊ノ撤退時期ヲ午	前九時ニセラレ度シ	二、之カ爲日支兩軍ヨリ各二名宛ノ代表ヲ本朝午前六時北平陸軍	機關ニ集合セシメ現地ニ向ハシメラレ度シト	右ニ對シ寺平輔佐官ヨリ時間ハ既ニ先般約束東濟ミノ管ナリ今更	變更ヲ要求セラルルヲ見レハ支那側ノ命令ニ齟齬シアルニ非サ	ルヤト答ヘタル上直チニ此ノ旨軍ニ報告シ現地ニ於ケル誤解防	止ニ善處セラレ度（鈴木少佐）依頼ス	岡村中佐ヨリ電通	旅團命令 七月九日午前三時 於豐臺旅團司令部
----------	--------------	-----------------	---------	-------------------------------	-----------	-------------------------------	----------------------	-------------------------------	------------------------------	------------------------------	-------------------	----------	---------------------------

六、余ハ今ヨリ蘆溝橋驛ニ至ル	五、機械部隊ハ一部（砲兵及工兵部隊）ヲ皇軍ニ主力ヲ以テ通州ニ集結シ後命ヲ待ツヘシ	四、支那軍撤退ニ際シテハ射撃ヲナシ又ハ蘆溝橋部落ニ兵ヲ進ムルコトヲ禁ス	三、步兵第一聯隊（第二大隊）ハ一部ヲ以テ一文字山東側ニ主力ヲ以テ蘆溝橋驛附近ニ集結スヘシ之カ實施ハ午前五時「整方止メ」ノ號音吹奏ニヨリ開始スヘシ	二、旅團ハ蘆溝橋驛附近ニ兵力ヲ集結シ軍ノ協定事項ヲ監視セムトス	一、軍ハ二十九軍ノ要求ヲ入レ在蘆溝橋ノ支那軍ハ蘆溝橋橋梁ヲ經テ永定河右岸ニ撤退スルコトヲ確約セリ 軍ハ支那軍ノ協定ヲ容レ同時ニ兵力ヲ集結ス
----------------	--	-------------------------------------	--	---------------------------------	--

步兵旅團長 河邊少將

前
五二〇

旅團司令部鈴木大尉ヨリ電話

一、軍ハ協定ニ基キ午前五時葎溝橋驛附近ニ集結セムトセシニ支那軍ハ之ニ對シ射撃ヲ開始セリ（MG JA等ヲ以テ旺ニ射撃ス）
速カニ支那側ニ通告シ行動中止ヲ命セラレ度シ

右ニ基キ直ニ秦德純並張自忠ニ傳達スルト共ニ支那側ノ命令ハ確實ニ傳達シアルヤ否ヤ又命令傳達ノ方法ハ如何ニセルヤ嚴重抗議セシ處支那側ニハ電話線切斷ノタメ確實ニ傳達シ非サル模様ナリ依テ直ニ周永業、林耕宇等現地ニ向フコトトセリ

日本側ヨリハ昨夜張家口ヨリ歸平セルモ城門閉鎖ノタメ西直門外ニ待機シアル中島顧問（周參謀同行）ヲ現地ニ急行事態ヲ收拾セシムルコトトセリ

前
五四〇

孫澤宇ニ對シ電話ヲ以テ日本側ヨリ支那側ニ對スル抗議

一日支那軍ノ撤退協定既ニ成立セル故昨七日以來閉鎖セル各城

0029

門ノ開放ヲ爲ス事	北寧鐵路日本軍衛生機關ノ輸送拒絕ハ北清事變ニ基ク條約違反ナルニ付此ノ儘支那側ニ於テ誠意ナキ態度ニ出ツルトキハ自衛上日本軍ハ北寧線ヲ接收スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ	前 五五〇 孫潤宇ヨリ電話	右二項ニ對スル抗議ハ全朝直ニ政務委員會ヲ開キ議決ノ上回答ス	前 六一〇 中島中佐ヨリ旅團長ニ傳ヘラレ度シノ電話ニ接ス	小官ハ副旅長、周參謀、林耕宇ト共ニ廣安門ニ到着セルモ該門ニ土葬工事ヲ施シ在ル爲取除作業ノ爲遲延シ同六時四十分頃現地ニ到着ノ豫定ニ付夫レ迄御待チ乞フ	旅團司令部山田准尉午前六時十分傳達終リ	前 九五〇 張允榮ヨリ電話	廣溝橋ニ於ケル支那軍撤退後同地ノ治安維持ノ目的ノ爲保安隊
----------	--	------------------------------	--------------------------------------	---	--	----------------------------	------------------------------	-------------------------------------

0030

前

九五〇

約五百名ヲトラツタニ搭乗セシメ派遣セシカ五里店附近ニ到着セル時日本側機關銃ノ射撃ヲ受ケ死傷若干ヲ生セリト

現地中島中佐ヨリ左記ノ通報來ル

一、顧問一行ハ本朝午前六時四十分現地ニ到着シ直ニ在薩溝橋部隊ニ連絡ス

ニ、支那軍ハ撤退ヲ開始シ午前十時三十分終了ノ豫定ナリ

三、午前九時頃輕機一八ヲ有スル約二百名ノ保安隊ハ散開ノ上前進シ射撃セシニ依リ我亦之ニ應戰シ彼我共ニ若干ノ死傷者ヲ出シ目下五里店附近ニ於テ阻止シ了リ

四、右ノ如ク二十九軍類似ノ保安隊ヲ薩溝橋ニ入ルルハ張團長ノ全然不同意トスル所ナリ

五、目下日支兩軍共ニ協定線ニ撤退中ニシテ薩溝橋ニ在リシ櫻井少佐、齋藤通譯共ニ無事ニシテ中島中佐等一行ト共ニ日支軍ノ中間ニアリテ撤退ヲ斡旋シアリ

0031

右ニ對シ機關長ハ保安隊ニ對シテ敵トシテノ行動ハ不敢取中
セラレ度

保安隊衝突事件收集ノ件

一、支那側ノ申出

一、保安隊ノ服裝ハ降雨ノ爲外套ヲ着用シアル爲二十九軍ト同
一色ナルモ外套ヲ脱セル茶褐色保安隊服裝ナリ

二、事態拾集ノ爲支那側保安隊ヨリモ人ヲ派スルニ付日本側ヨ
リモ差出サレ度シ

尙同時ニ保安隊到着時連絡者ヲ旅團司令部ニ向ヒ派遣セシ
モ到着前ニ於テ日本側ヨリ射殺セラレ目的ヲ達シ得ス爲ニ
日本側ヘ了解ヲ得ル道杜絶セリ

三、右ニ付機關ノ處置

一、事件拾集ノ爲笠井軍事顧問並愛澤通譯生、廣瀬祕書ヲ現地
ニ派遣スルニ決ス

後

一〇〇

通州機關ヨリ通報

本情ハ冀東政府役人カ北平同人ヨリ聞込ミタルモノニシテ確
ハ期シ難キモ參考迄

一、南京ノ中央部ハ今回ノ事件長引ク時ハ軍時ノ責任ハ中央ヨ
負擔スル旨二十九軍ニ訓令セリ

2. 蘆溝橋ニ入ル保安隊ニハ輕機ハ携行セシメス且彈藥敷ヲ各

人十發位ニ制限スルコト人員約百五十名

三、支那側代表ハ午前十一時四十分來館ス依テ代表者竝石友三

ト交結果右決定ノ上午後二時四十分出發セリ

此ノ頃現地竝軍司令部ヨリ左記電話アリ

一、蘆溝橋ニ在ル支那軍ハ城壁上ヲ趙遙シアリテ未タ撤退ノ模

ナシ原因調査アリ度

右ニ付現地中島中佐ニ連絡ノ結果支那軍ハ撤退シツツアルモ

部ノ兵員殘置シアルノミナリト

0033

二、北平ノ日支兩軍不徹底ナル原因ハ冀察首腦委員ノ大部分カ天津ニ在住シ連絡不統一ノ爲ナリ	三、今回ノ事件ノ發端ニ就テ	支那側ノ主張スル所ニ依レハ日本軍カ演習中一名ノ行方不明者ヲ出シ之カ協力捜査ヲナシタル結果衝突ヲ惹起シタルモノナリ	塚田中佐ヨリ電話	一、在蘆溝橋支那軍ハ午後零時二十分保安隊トノ引繼ノ爲一ヶ小隊ヲ殘置シ主力ハ撤退ヲ完セリ	通州機關ヨリ電通	昨夕冀察要人會議議決事項 本情報ハ冀東政府役人ノ北平殘留者ノ齎ラセルモノニシテ眞偽不明ナルモ參考迄	一、今回ノ事變ニ就テハ南京政府及宋哲元ニ詳細ニ急報スル事
--	----------------------	---	-----------------	--	-----------------	--	-------------------------------------

0034

ニ張自忠、馮治安、劉汝明三軍ヲ三路抵抗軍トナシ三萬ヨリ日	本軍ヲ包圍攻撃ス	三北平市長秦德純ヲ三路抵抗軍總參謀長ニ任ス	四北寧鐵路局長陳覺生ヲ交通司令ニ任ス	五外交委員熊少豪ヲ外交專門委員ニ任ス	六交通委員張允榮、潘毓桂及張壁ノ三人ヲ軍事顧問兼冀東解消	專員ニ任シ主トシテ冀東解消工作ニ當ラシム	セ右ノ外三十名ヲ北京天津ニ特派シ冀東ニ關スル郵便物通信等	ノ検査ヲ嚴重ニ行ハシム	八石友三軍ヲ龍王廟ニ出動セシメ馮治安部隊ト交代セシム	憲兵報告	朝陽門ハ目下半開シアリテ一般單獨通行入及洋車等ハ通行セシ	メアリ	憲兵報
-------------------------------------	-----------------	------------------------------	---------------------------	---------------------------	-------------------------------------	-----------------------------	-------------------------------------	--------------------	-----------------------------------	-------------	-------------------------------------	------------	------------

0035

後

四〇〇

廣安門ハ尙開門シアラス又附近道路ハ取締最モ嚴重ナリ
天津軍ヨリ電通

一、參謀長一行ハ本日午後三時四十五分天津發列車ニテ來平セラ
ルルニ付入平方取計ハレ度シ

之カタメ

一、寺平輔佐官ハ午後四時北平發自動車ニテ豐臺ニ出迎ノ爲到ル
ニ支那側ヨリハ秦德純、張自忠、馮治安等ヲ代表シ張我軍カ到
着時廣安門外ニ出迎フル筈

後

四三〇

左記二項ヲ孫潤宇ヲ通シ支那側ニ要求ス

一、日本軍憲兵田中伍長、小島上等兵二名昨夕八寶山附近ニ向ヒ
タル儘行方不明トナレリ聞ク處ニ依レハ西苑兵營軍法處ニ拘
禁セラレタルモノノ如ク同所ニ同人等使用ノ自動車ヲ發見セ
リ依テ當方ヨリ身柄受取りノ爲憲兵ヲ派遣スヘキニ付宜敷取
計ハレ度

0036

尙支那側ヨリモ誰カ同行者ヲ差出サルレハ好都合ナリ

三蘆溝橋ニ在ル日本軍北平部隊ヲ本夕北平ニ歸還セシムヘキニ

付午後六時一六時半頃城門ヲ開カレ度（廣安門）或ハ消路ノ

都合上鐵道線路ニ沿ヒ歸來スルヤモ知レサルニ付宜敷御配屬

ヲ乞フ（北平駐屯部隊ヲ歸還セシムルモノニシテ他部隊ヲ北

平ニ入ルルニ非サルニ付吳々モ誤解ナキ様）

三、要スレハ豊臺ヨリ鐵道輸送ヲ依頼ス

右要求ヲ基礎トシ市内ニ於ケル支那軍トノ衝突ヲ願慮シ行軍徑

路ノ決定並鐵道輸送ノ能不能等ヲ協議セシ處秦德純ハ鐵道輸送

ヲ諾シ豊臺驛長ニ命令スルコトヲ約セリ時ニ午後六時ナリ

依テ機關ハ現地旅團司令部ニ通報セシ處本夜（時刻未定）戰傷

者ノミヲ列車輸送ヲナシ部隊ハ明朝列車結成ノ都合ニ依リ鐵道

並徒歩何レカニ依リ歸平スル旨回答シ來ル依テ直ニ張我軍並北

平歩兵隊ニ連絡ス

0037

9日

後

六三〇

參謀長一行ノ動靜

本日午後天津ヲ發セル參謀長一行ハ天津ニ於テ前門驛迄運行ヲ約シ來レルモ貴臺驛長ハ該命令ニ接シ非サルヲ以テ之ニ從フヲ得ストテ運行ヲ拒絕セリ依テ機關ヨリハ同列車ニ戰傷者ノ列車ヲ連結シ運行ヲ要求セル結果秦德純ハ之ヲ承諾セリ

依テ參謀一行出迎ノ爲貴臺ニ派遣セシ空自動車ノ崎平ニ關シ通門方ヲ同時ニ依頼セリ

然ル處參謀長ハ右交渉ノ成立ヲ待タス出發セリトノ報ヲ受ク時ニ六時五十分ナリ

同時ニ憲兵隊重松少尉ノ通報ニ依レハ秦德純ヨリ列車運行方貴臺驛長ニ命令セルモ該命令ノミニテハ運行シ難シト拒絕セリト依テ之カ尊處方嚴我軍ニ依頼ス

一、蘆溝橋ニ殘置シ在リ約一小隊ノ支那軍ハ保安隊約五十名ノ入城ト共ニ全部永定河右岸ニ撤退セリ

0038

後 七〇〇	三、殘餘ノ保安隊ハ笠井少佐ノ誘導ニ依リ蘆溝橋ニ入ラシムル筈 小野口副官ヨリ
後 七三〇	一、戦傷者ノ輸送列車ハ午後八時前門驛到着ノ豫定 聯隊、病院、民會等ニ通知スミ 小野口副官ヨリ電話
後 七三五	一、參謀長一行ハ午後八時頃廣安門到着ノ豫定 二、戦傷者ハ未タ積込ヲ完了セス 通州機關ヨリ電通
	一、明日午前川越大使ハ王龍煮ト同道シ天津ニ入ル豫定ニシテ其ノ目的ハ今回ノ事件ヲ中央側ニ於テ外交的手段ヲ以テ解決セント欲スルニアリ 二、右ハ事實トスレハ外交ニ於ケル冀察ノ解消トナリ日本自ラ南京ヲ北支ニ引込ム事トナリ重大事ナリ 三、冀東要人ハ勢ノ赴クトコロ早晚冀東モ此ノ選命ヲ辿ルモノニ

0039

後 八〇〇 非サルヤト憂慮シアリ	小野口副官ヨリ	一、負傷者ノ積込ニ残り一名ニテ完了ス	二、午後八時五十分豊臺驛ヲ出發セリ	三、患者十一名衛生兵二名患者ノ親一名來ルヤモ知レス	四、九日午後十時前門驛ニ到着ス	櫻井少佐、齋藤通譯ハ午後八時二十分無事歸平セリ中島顧問ハ	本夜戰場ニ一泊ス、櫻井顧問、愛澤通譯生、廣瀬秘書ハ午後十	時十分歸平ス	參謀長一行ハ午後八時三十分扶桑館ニ到着セラル	後 九二〇 憲兵隊重松少尉ヨリ	一、警察ヨリノ好意的連絡ニ依レハ先程德勝門ヨリトラツタ五十	臺ニ搭乗セル武裝ノ支那正規兵入城セリ	右ハ警察ノ諜者カ報告セルモノニシテ事稍大キ過キル感アルモ
------------------------------------	----------------	---------------------------	--------------------------	----------------------------------	------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	---------------	-------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------------	---------------------------	-------------------------------------

0040

後

九二五

参考ノ爲（詳細ハ警察ニ承知シアリ）
憲兵分隊ヨリ

西城新街口南大街十四號忠順飯店止宿ノ松田實男ノ居室ニ昨日（十日）午後三時頃支那人巡警戸口調査ト稱シ來訪セルモ暫時ノ後退出セルカ今朝四時頃再ヒ同人宅ノ戸ヲ叩キ妻千恵子（二十八歳）出テ門ヲ開ク約十五、六名ノ支那兵闖入シ銃ヲ擬シ家宅搜索ヲ始メタリ同人ハ之ヲ拒否セルモ肯ンセス中一名ハ遂ニ銃劍ニテ同人ノ頸ヲ突キ約二寸位ノ刺創ヲ負ハセタリ同時ニ他ノ兵ハ五六發ノ威嚇射撃ヲ爲セリト尙同飯店居住ノ十八家族支那人、朝鮮人）モ多少ノ脅迫ヲ受ケ略奪等ヲ受ケタル模様ナルカ同止宿鮮人趙鎬權ナル者ハ三發ノ小銃射撃ヲ受ケ右ノ背カラ腹ニ約四寸位ノ擦傷ヲ負ヒタリ右兩人直ニ日本警察ニ出頭救ヲ求メ來レリ兩人目下同仁病院入院中

（尙松田實男ハ目下不在中ナリ

0041

七月十日（晴）									
前 二五〇		前 三二〇		前 三二〇		前 四五		前 三二〇	
中島中佐ヨリ		度シ		蘆橋橋ニ在ル第二大隊一線部隊ニ照會ノ結果		第一線部隊ヨリノ報告ヲ其ノ後中島中佐ニ通報セリ		中島中佐ヨリ	
宛平縣城外西北方ニ機關銃ノ銃聲アリ其ノ原因至急調査セラレ		今ヨリ約二十分前龍王廟方向ニ在リテ約三分間機關銃ノ銃聲ア		リタルカ日本側ノモノニ非ス、右ハ日本側カ永定河、左右岸ニ		進出シアルヤ否ヤ確認セム爲發射セルモノト解セラル		中島中佐ハ長辛店ニ後撤シ在ル支那側聯隊長ニ對シ機關銃發射	
問題ニ對シ警告ヲ與ヘ置キタリ		尙原因判明ノ結果宛平住民及保安隊ハ安堵シアリ		宛平縣戰跡巡視ニ付河邊旅團長ト打合セノ結果報告スヘシ					

0043

前 六三〇	中島顧問ヨリ 本日間モナク王縣長ト共ニ秦市長ヲ訪問シ歸途機嫌ニ立寄ル （縣長ヨリ是非一語ニ行ツテ矣レトノ請ニ依リ） 憲兵隊重松少尉ヨリ
前 六四〇	各城門ハ目下偵察中ナルモ未タ開門ノ報ニ接セス 本朝迄狀況ノ變化ヲ認メス 部隊歸還時ニ於ケル開門等ノ手配ヲ宜敷ク 豊盛、松山副官ヨリ電話
前 七〇〇	本日北平歸還ノ爲鐵道輸送致シ度シ、城内ヘノ入門ハ可ナル ヤ 下車後ノ経路ヲ如何ニスヘキヤ 三時間ハ確定セサルモ概ネ十一時頃發車シ十二時頃迄ニハ歸平 致シ度シハ確定後通報ス 輸送命令ハ下達シテモ可ナリヤ

0044

前 七二〇	前 八〇〇	前 八二五	前 九〇五	前 八二五	前 八二五	前 八二五	前 八二五	前 八二五	前 八二五	前 八二五	前 八二五	前 八二五	前 八二五
各機詳細輔佐官ト打合セ致シ度シ 機關長ハ參謀長ニ對シ狀況報告ノ爲扶榮福ニ到ル	天津軍參謀長宛電報ヲ軍ヨリ移添	關東軍奈良部隊及入江砲兵聯隊ハ昨九日夕迄ニ山海關ニ集結 完了セリ	關東軍飛行隊（一部缺）ハ歸州・山海關ニ集結ス	承德部隊ハ承德―古北口間ニ在リテ出動準備完了ス	憲兵報	各城門ハ未タ開門シアラス	豐臺無電分隊ヨリ北平通信隊長宛通信	第一線ノ狀況惡化ス、歸平部隊ノ歸還見合セ第一大隊出動準備 中ナリ	（狀況 昨九日夜三時頃龍王廟ヨリ發射セルヲ以テ兩軍撤退協 定違反シ第一線稍憤激シアリ）				

0045

前 九三〇	參謀長ハ北平機關ニ位置ス一右各方面ニ連絡一
前 一一二〇	軍司令部ヨリ電話通報、參謀本部發天津軍參謀長宛
本文 航空兵團山嶺參謀ハ貴軍ト連絡ノ爲明十日出發飛行機ニ テ天津ニ派遣セラルル豫定	
前 一二〇〇	張允榮ヨリ塚田中佐宛
ノ文部館ノ砲射撃セサル様各部隊ニ到シ若日本側ニ到シ發信 スル者アラハ嚴罰ニ處スル旨ノ嚴命ヲ下セリ	
2.現地ニ於テハ日支協同シテ死體搜索ヲ實施シツツアリ	
3.日本側モ絶對ニ支那側ニ射撃セサル様嚴命セラレタシ	
後 〇一〇	豆島松山少佐ヨリ電話
將校斥候ニヨル現地狀況報告	
1.龍王廟附近ニ支那軍ナシ	
2.龍王廟南側鐵道北側ニモ支那軍ナシ	
3.永定河右岸鐵道北側ニ監視兵アリヲ其ノ後方ニ部隊アルモノ	

0046

ト認ム	(之ニ對シ旅團ハ支那軍ハ永定河右岸鐵道南側ニ撤退スヘキモノナリトノ見解ヲ有シ之ハ軍命令ニ基クモノナリト稱シアリ)	アリ	名龍王廟北六〇〇米ノ地點ニ南面ノ陣地アリ	笠井、廣瀬境地ヨリ歸還	支那側保安隊死傷者收容完了ス	西五里店ニハ支那側保安隊ナシ	蘆溝橋縣城内無事平穩ナリ	松山小佐ヨリ電話	午前十一時頃ヨリ臺臺部隊ノ主力ハ東五里店ニ向ヒ移駐セリ	◎原因ハ昨夜龍王廟ヨリノ射撃及八寶山附近支那軍ノ蠢動ノ報アリテ一文字山ニ殘置セル二箇中隊ノ我軍危險ヲ顧慮セル結果ナリ
-----	--	----	----------------------	-------------	----------------	----------------	--------------	----------	-----------------------------	--

0047

通州機關島田囑託ヨリ受話

中央放送局（南京）九日午後九時同十一時ニ至ル間

八日朝北平テ日本軍ハ近來廣安門ノ西方二十支里平漢鐵路要所蘆溝橋ヲ目標トシテ演習ヲ爲シ隔々日本軍ノ前進シ來ルヲ我方ハ蘆溝橋（宛平縣城）ヲ奪取セラルモノト見ラレタリ、然シテ之ニ依ル衝突力事件ノ發端ナリ

2. 天津軍ヨリ飛行機ニテ日本將校來平

(一) 塘沽裝甲自動車天津ヨリ出動ス

(二) 八日午前三時頃四臺出動

3. (一) 八日正午北平電（秦市長記者ニ語ル）

今回ノ蘆溝橋事件、日本軍ハ豫メ計畫的ニ行動セルモノナレハ飽ク迄之ニ抵抗ス

今井武官ニ對シ今次ノ事件ハ計畫的ニ行ハレタルヤ否ヤヲ問ヒタル處計畫的ニアラサル旨答ヘタルニ付撤兵ヲ約シ置

0048

ケリ余ハ平和解決ノ前提トシテ雙方ノ撤兵ヲ希望ス雙方
時スルトキハ危険擴大ノ虞アリ

(二)八日午後四時四十分北平電(橋本王冷齋ト會談)

一、雙方不擴大ヲ希望ス

二、日本軍ノ提案苛酷ニ過キ支那軍ノ撤退ヲ要求スルモ斯カ
ル要求ハ應シ難シ

三、日本軍不法ナル要求ヲスルトキハ我方トシテハ之ヲ目
シ得ス

一、秦德純、馮治安、張自忠均シク和解ヲ希望ス

二、庫倫橋ニ在ル日本軍ハ八日午前三時二十分午前二時ノ二

回ニ亘リ發砲、午後七時ニ至リ又發砲ス

三、現在王冷齋縣長ノ報ニヨレハ平靜ナリ

八日午後九時五十分北平電

日本軍我軍ニ對シ撤退ヲ要求ス我軍之ヲ拒絶シ目下對峙中、

現在ノ狀況ニ依レハ日本軍ニ他意ナケレハ解決ノ見込ミアリ 支那軍ノ戦死者六、七十名 午前十一時日本軍又モ砲撃シ來ル 午前十二時停戦 午後六時ニ至ルモ對峙中、我方トシテハ和平ヲ希望スレトモ 不法ナル日本軍ノ要求ヲ絶對ニ入レズ 午後八時北平城内ニ戒嚴令ヲ布ク、人心平安ナリ 日軍ヨリ藤井顧問、我方ヨリ王冷齋縣長派遣目下交渉中 夜ニ入り城外ニ日軍ノ砲聲ヲ聞ク 重松少尉ヨリ 出陣伍長、小島上等兵ノ留留事件ニ關シテハ天津ノ藤井大佐等 モ非常ニ心配シテ居ラレマスカラ可成早ク釋放方ヲ支那側ニ交 渉御願ヒ致シマス 昨日孫孫蘭字ニ電話ヲ以テ詳細通告シ調査ヲ依頼シアリシ處本									
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0050

後 二二〇									
日兼市長ヨリ調査員ヲ派遣セシ旨返事アリタリ									
外國通信員ノ報道ニ依レハ「第一線ハ現在再ヒ砲火ヲ交ヘツツ									
アリ」トノ事ナレハ第一線ニ照會セル結果「斯カル事ナシ日本									
軍ハノンビリ晝寝ヲシツツアルカ如キ状態ニアリ」トノ事ナリ									
後 四〇〇									
協定會議ヲ開ク									
張 允 榮									
廬 南 生									
松 井 大 佐									
和 知 中 佐									
塚 田 中 佐									
大 木 少 佐									
今 井 少 佐									
寺 平 大 尉									
武 田 熙									

0051

後 四一五									
ム									
正陽門、和平門、宣武門等ノ各門閉鎖狀況ハ昨日ヨリ嚴重ヲ極									
リ									
重松少尉ヨリ									
以上七月十日午後四時以降現地ニアリテ連絡ニ任セラルモノナ									
笠井少佐									
王 冷 齋 周 参 謀									
中 島 中 佐 王 國 附									
2 現地ニ於ケル日支調停									
後退行動ヲトルヲ妨ケス									
(二) 支那軍ハ絶對ニ永定河ヲ越ユル事ナシ但シ該河以西ニ於テ									
但シ背後ニ於ケル連絡行動ヲ妨ケス									
(一) 日本軍ハ西五里店附近ニ集結シ本夜前方ニ行動スル事ナシ									
ノ十日夜ニ於ケル兩軍ノ行動ニ就テ									

0052

後 四二〇

櫻井顧問、秦德純ヲ訪問

八寶山方面ヨリ日本ノ將校斥候ニ對スル迫撃砲ノ射撃アリ

2 河西及北方ニ支那軍増加ノ情報アリ

右二箇條ノ故ニ日本軍ハ直ニ一ヶ小隊ヲ龍王廟附近ニ派遣シ之

カ監視ニ任シアリ、秦德純ハ之ニ答ヘテ

1 今夜ハ八寶山ノ線ヨリ前進セシメス兵ヲ動カサス

2 射撃ヲナシタルモノハ敵前ニ處ス

右二箇條ヲ櫻井顧問ニ約シ會見三十分ニテ辭ス

後 四三〇

通州機關ヨリ冀東政府ノ得タル情報ニ依レハ

中央軍ハ保定方面ニ進出セリト（兵數不明）但シ眞實不明ナリ

後 五〇〇

軍佐々木副官ヨリ

陸軍省新聞班松村少佐本日午後天津著同午後八時五十分天津發

列車ニテ北平ニ赴ク筈ニ付便宜取計ハレ度、同松村少佐ハ陸軍

省ノ命ヲ受ケ參謀長ノ區處ヲ受ケ北支ニ於テ當分ノ間服務スル

0053

後
五一〇

モノニ付北平機關又ハ武官室ニ宿泊方手配ヲ乞フ
通州細木機關長ヨリ松井機關長宛

昨夜南京ノ放送ニヨレハ東京ニ於ケル日本當局ト外國記者團ト
ノ會見ニ於テモ記者團ヨリ日本ハ北平近郊ニ於テ演習ヲスル機
利アリヤ將タ日本軍ノ夜間演習ハ如何ナル用意ナルヤ等詰問セ
ル事實アリ、又支那側蘆山當局ハ日本軍ノ蘆溝橋演習ハ違法ナ
リ、嚴重抗議ヲ爲ス等放送サレツツアルカ之ニ見ルモ支那側ハ
演習云々ヲ以テ宣傳ニ利用シツツアルヤニ見ル、因テ明治三十
四年交換セル天津還付條約ニヨリ明記セル條文ヲ新聞記者團ニ
公表シテ先手ヲ打ツ必要ナキヤト思考サル

後
五四〇

小野口副官ヨリ電話

第一線ノ狀況急變、午後五時十分約百名ノ支那軍衙門口ニ現レ
追撃砲ノ射撃ヲ交ヘツツ龍王廟ニ向ヒ前進中
我軍ハ鐵橋ニ半小隊、龍王廟ニ一小隊アリ、第一聯隊ハ出動中

0054

備中ナリ	後 五五〇	後 五五五
第一大隊ハ大瓦竇ニ向ヒ前進シ第二大隊ノ右ニ配備	小野口副官ヨリ	ノ(一)敵情衙門口方面ノ敵ハ東北方八寶山方面ニ向ヒ移動中
(二)聯隊ノ第二大隊ハ一文字山、第一大隊ノ一部ヲ蘆澤橋驛北	側ニ出シ前方ヲ警戒中	(三)西北方無名部落ニ出セル機關銃一小隊ヨリハ退却セル敵ヲ
射撃スル銃聲聞ユ	(四)永定河右岸ヨリハ迫撃砲射撃ノ煙見ユ	2.旅團命令要點
(一)聯隊ハ一部ヲ以テ一文字山ヲ占領、主力ヲ以テ西五里店ニ 位置シ八寶山方面ニ對シ警戒スヘシ	(二)本夜暗ヲ利用シ龍王廟ニ在ル一小隊鐵橋附近ニアル一小隊 ハ撤退スヘシ	

0055

(三)別ニ一中隊ヲ旅團豫備トシ豐臺ニ位置スヘシ	注意 八寶山方面ノ搜索ハ斥候ヲ用キス諜報ヲ主トスヘシ	小野口副官ヨリ電話	七時二十分永定河西岸ヨリ一文字山ニ向ヒ追撃砲ノ集中射撃ヲ	實施シアリ、旅團長ハ支那側ノ誠意ヲ認メス旅團司令部ヲ裝甲	車二臺ニテ西五里庄ニ向ケ前進セリ	通州機關ヨリ	冀東政府ノ得タル狀報ニ依レハ	宋哲元ハ二十九軍首腦部ニ對シ日本軍力撤退セサル以上飽迄武	力解決ト訓令セリ	右ニヨリ現地ノ二十九軍ハ頗ル強硬態度ニ變化セル模様ナリ	小野口副官ヨリ電話	八龍王廟ニ派遣セル一箇小隊ハ龍王廟ニ到着セス南側ニアリタ	リ
--------------------------------	-----------------------------------	------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------	---------------	-----------------------	-------------------------------------	-----------------	------------------------------------	------------------	-------------------------------------	----------

0056

2 龍王廟ニハ將校斥候派遣セル際敵兵ヲ認メサル旨報告シアリ タルモ該地ハ前日ヨリ機關銃ヲ有スル二小隊ノ支那兵アリ	3 東辛庄ニハ兵力不明ナルモ相當ノ支那兵アリ 4 機關銃ヲ有スル頗良小尉部隊ハ行爲不明ナルヲ以テ連絡中隊 ヲ派遣ス	5 永定河左岸ノ敵ヨリ迫撃砲ノ射撃ヲ受ケタル龍王廟部隊ハ相 當ノ死傷者ヲ出セル模様ニシテ自動車ニテ收容中隊ヲ派遣ス 武官室ヨリ	第一線ヨリノ通報ニ依レハ我軍ハ龍王廟ヲ夜襲シ之ヲ占領セリ 田中秘書ヨリ	十一時頃支那軍用トフツタ三臺（空軍）公安街ヲ前門方向ニ向 ヒ進進セリ
---	--	--	--	---

後
一、〇五

後
九一五

0057

